

「基礎・基本」定着状況調査 本年度通過率 (本校 70.4%, 県 73.6%)

対県比 95.7%

学力定着実態調査 本年度正答率

本校 70.4%
全国 66.8%

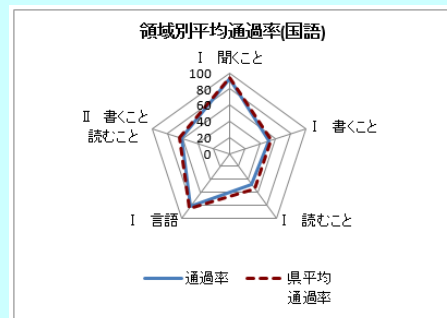
対全国比 95.4%

本年度の結果について

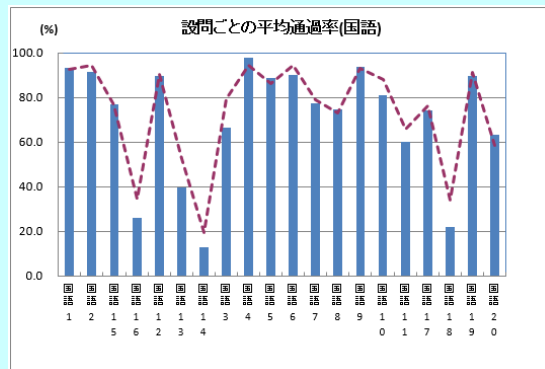
タイプⅠの平均通過率は72.4%, タイプⅡの平均通過率は62.1%であった。

学んだことをどのように使うのか考えていると答えた生徒が78.2%もいるにも関わらず、視点を変えて答える問題や読み取った情報を基に意見を述べる問題ができていない。活用する場を増やし、問題を解くすべを身につけさせたい。

領域別平均通過率



設問ごとの平均通過率



全国学力・学習状況調査 本年度正答率

A問題

本校 75.5%
全国 76.5%
県 75.8%

B問題

本校 66.1%
全国 67.0%
県 65.8%

来年度(全国学力学習状況調査)の目標値

対全国比

100%

重点課題

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

タイプⅠ【三 5 登場人物の心情把握】(12.7%)
登場人物の心情を要約して表現することに課題がある。また、心情の変化を文章表現に着目して読み取ることに課題がある。
タイプⅡ【五 2 情報の読み取りと意見の記述】(21.8%)
必要な情報を読み取り、自分で言葉を補いながら意見を述べることに課題がある。また、根拠を明確にして書くことにも課題がある。

【課題2】全国学力・学習状況調査

A問題【9四② 単語の種類について理解する】(14.5%)
全国 33.7%, 県 29.0%である。転成名詞をはじめ、単語の種類を識別することができない。各品詞の特徴習得が不十分なことが原因だと考えられる。
B問題【複数の資料から適切な情報を得て、自分の考えを具体的に書く】(18.9%)
全国 23.0%, 県 24.9%である。問いに対して、どの資料を使えばよいか考えられないことに課題があると考えられる。

重点課題に対応した改善指導内容及び方法 (授業)

【課題1】「基礎・基本」定着状況調査

左記のどちらの課題にしても、自分の言葉で表現する力をつける必要がある。そのため、学習したこと、読み取ったことを自分の言葉でまとめる場を増やす。この活動を通して、考え方や表現の仕方を身につけさせる。

【課題2】全国学力・学習状況調査

A問題 基本的な品詞の識別の知識を習得させるため、練習問題に重点的に取り組ませる。そして、その知識を、読む場面・書く場面で活用することで定着を図る。

B問題 場面設定の読解をもとに、何が問われているかを確実に理解させる。その上で、その問いに答えるためにどんな資料を使用する必要があるかを考える機会を、授業の中で作る。また、定期試験で実践問題に取り組む。

「基礎・基本」定着状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年中間試験		2年期末試験		2年学年末試験	
目標値		60%		65%		70%	
実施後数値							

全国学力・学習状況調査	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学年・方法		2年・3年中間試験		2年・3年期末試験	3年学年末試験	2年学年末試験	
目標値		60%		65%	70%	70%	
実施後数値							